

不思議な木の实

昔々、山の中に小さな村がありました。その村には、ケンという男が住んでいました。ケンはずっと一人で森に行き、変わった石を集めるのが好きでした。村の人たちは「どうしてそんな石を集めるの？」と聞きましたが、ケンは「ただ好きだから」とだけ答えていました。

ある日、ケンが森を歩いていると、今まで見たことがない、とても大きくて光る石を見つけました。その石はまるで生きてるように温かく、優しい光を放っていました。ケンは「これはただの石じゃない」と思い、その石を家に持ち帰って庭に置きました。

次の朝、ケンが起きて庭を見てみると、そこには大きな木が生えていました。ケンは驚いて木に近づくと、木にはたくさんの実がなっていました。その実はいしのように見えたが、触ると柔らかくて、音がしました。ケンはその実を一つ割ってみました。すると、中からなんと音楽が流れ出てきました。

ケンはとても驚きましたが、その音楽はとても美しく、心が落ち着きました。ケンは他の実も割ってみました。それぞれ違う音楽が流れてきました。

ケンは急いで村の広場に行って、この不思議な実を村の人たちに見せました。村の人たちは、最初は信じませんでしたが、実から音楽が流れるのを聞いて、みんなとても驚きました。

その夜、村の広場でケンはいっせいにその音楽の実を聞かせました。実から流れる音楽に合わせて、村の人たちは自然と踊り始めました。村中が楽しい音楽と笑顔でいっぱいになりました。

次の日から、その木はどんどん大きくなり、音楽の実も増えました。村はいつも音楽でにぎやかになり、遠くの村からも音楽を聞きに人々が来るようになりました。村はだんだんと豊かになり、みんなが幸せに暮らせるようになりました。

しかし、ある日、他の村から商人が来ました。商人はその木の噂を聞いて、「この木を私に売ってくれませんか？」とケンに頼みました。商人はたくさんのお金を用意しましたが、ケンは「この木は村のみんなのものです。売ることはできません」と断りました。

商人はがっかりしましたが、どうしても木が欲しくて、夜になってこっそり木を切り倒そうとしました。しかし、商人が木に近づくと、突然、木が大きな音を立てて揺れ始め、悲しい音楽が流れました。その音楽を聞いた商人は体が動かなくなり、涙を流してしまいました。

次の日の朝、村の人たちが広場に集まると、商人が泣いていました。そして、「ごめんなさい。あの木はただの木ではありません。とても大切なものです。この美しい音楽をどうか守ってください」と言いました。村の人たちは商人を許し、商人は村を出て行きました。

その後、村はますますにぎやかになり、音楽が絶えない幸せな村として有名

になりました。ケン^{しず}は静かにその村^{むら}の様子^{ようす}を見守り^{みまも}ながら、いつまでも平和^{へいわ}に暮^くらしました。

(1162字)

(2024.9.11 Made by ChatGPT 4o)

(Revised by Toru YOSHIKAWA)



この作品^{さくひん}はクリエイティブ・コモンズ^{ひょうじ} 表示 - 非営利 - 継承^{ひえいり けいしょう} 4.0 国際^{こくさい} ライセンス^{らいせんす}の下^{もと}に提供^{ていきょう}されています。この作品^{さくひん}を利用^{りよう}する場合は、^{ばあい}「たどくのひろば」を出典^{しゅってん}として示してください。

例^{れい}) 出典^{しゅってん}: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.